

そこが聞きたい!! 一般質問

一般質問のようすは、インターネット録画配信をしています。2次元コードから、該当議員の動画へアクセスできます（パソコンやスマートフォンで視聴できます。閲覧可能期間は2年間です）。

一般質問は、議員が市政全般について、自由なテーマで市長に質問・政策提言を行うもので、市民の声を市政に届けるものです。3月定例会では、16名の議員が一般質問を行いました。ここでは、質問と答弁の一部をご紹介します。なお、質問の内容は、質問した議員が作成しています。【インターネット録画配信もご覧ください】

このままでいいのか サピオ稲荷山の民営化

町田 昌弘（創造）



録画配信の
2次元コード

◆民営化された場合の問題点を洗い出し、十分な議論の上に進めていくべきでは

①周辺住民や利用者への説明会の実施状況とその時の反響は。

②健康増進施設としてサピオ稲荷山が果たしてきた役割をどのように受け止めているのか。

長寿健康部長 ①平成29年8月と11月に説明を行っているが、このうち、上諏訪自治会では、サ



市民の健康づくりとふれあいの場として

その他のテーマ▶入曽駅周辺整備事業

ピオ稲荷山の収支や耐用年数などに関する質問とともに、稲荷山環境センターと関連した意見が出され、また、鶴ノ木の第二自治会及び第三自治会では、サピオ稲荷山の老朽化などに関する質問とともに、鶴ノ木自治会で運営している売店に関連した意見などが出されている。なお、これらの説明会は、サピオ稲荷山を民営化するとの方針を示す前に開催したものである。

②サピオ稲荷山は、稲荷山公園駅に近接する立地特性を生かし、近隣他市の住民を含めて多くの方々に利用され、気軽に健康増進ができる公共施設として親しまれてきた。しかし、開館から21年が経過し、施設や設備の老朽化が進むとともに、利用者の半数以上が市外の住民であること、また、近隣において民間による類似施設が多数運営されている現状を踏まえると、サピオ稲荷山をこれまでどおり公共施設として運営していくことの必要性は薄れてきているものと受けとめている。

地域の防災・減災対策と防犯対策で地域力の向上を!

齋藤 誠（公明党）



録画配信の
2次元コード

◆入曽地区防災計画の今後の取り組み

入曽地区防災計画において、大地震を想定した対策の今後の取り組みは。

危機管理監 入曽地区防災計画実行委員会で、地域防災力の向上や災害時における対応力の強化を実現するため、まずは風水害を想定した具体的な取り組みを取りまとめ、自主防災組織の拡充を図っていくが、地震を想定した取り組みの検討も必要であるとの意見もあり、今後、協議されていくと考える。

◆防犯まちづくりのポイントと防犯カメラの意義

①犯罪を起りにくくする「防犯まちづくり」のポイントは。

②地域で防犯カメラを活かす取り組みは。

市民部長 ①住みなれた地域を防犯の視点から改めて見直しする。ふだんでも薄暗い場所や、あまり人目につかない場所などを検証し、犯罪が起きやすいような場所には、樹木の剪定など見通しの確保や防犯灯の点灯などの必要な対策を講じて、地域ぐるみで犯罪の起きにくい環境をつくるのが重要である。

②今後、技術革新が進み、人工知能を組み合わせることで、犯罪の防止や地域の安全確保の観点からだけでなく、市民生活の利便性の向上からも、防犯カメラを活かす取り組みの調査研究をする。



高齢者福祉のさらなる充実・強化を望む

加賀谷 勉（公明党）



録画配信の
2次元コード

◆地域ケア体制のさらなる充実強化を望む

①高齢者福祉をはじめ福祉部門全般にかかわる支援体制をアウトリーチによる支援を重点にすべきと考えるが、見解は。

②地域における高齢者の相談窓口としてかなり周知徹底されてきた地域包括支援センターの支援対象枠の拡大による機能の強化が必要だと考えるが見解は。



安心と希望の未来をめざして

長寿健康部長 ①アウトリーチが必要な支援の対象者は、精神的な問題や生活困窮などを抱え、自ら支援を求めることができず、潜在的な支援のニーズが放置されたまま、何らの支援にもつながらないような方である。既存の福祉制度やサービスの枠にとらわれず、トータル的なサポートの考えに立った、アウトリーチによる支援が重要になってくるものとする。

②厚生労働省において進められている「地域共生社会」の取り組みは、高齢者、障害者、生活困窮者、子どもなどの各福祉制度の狭間にある課題の解決に向け、地域力を強化することを目的としているもので、実現に向けた法改正などが順次進められている。本市も、トータルサポート推進室を設置し、課題の解決に向けた取り組みを進めているが、さらなる強化に向けて、全世代対応型の地域包括支援センターの設置を今後、研究していく。

※アウトリーチ・・・「手を差し伸べる」という意味で、対象者のいる場所を訪問し、積極的に働きかけていくこと。

インフルエンザ予防接種費用を小中学生にも助成を

綿貫 伸子（公明党）



録画配信の
2次元コード

◆インフルエンザ予防接種事業の拡充を

小・中学生に対してもインフルエンザ予防接種の費用の助成を要望するが、市の見解は。

長寿健康部長 法律上、任意の接種に分類されるため、感染の規模が社会経済に甚大な影響を与えるような場合を除き、公費による助成の対象外である。しかし、例年猛威を奮う状況にあり、学年閉鎖などにより学校運営にも支障が生じて



保護者の負担軽減を
為に助成を

いる場合もあるため、今後は助成を検討する必要があるのではないかと考えている。

◆骨粗しょう症検診・骨折予防教室を利用しやすく

①骨粗しょう症検診・骨折予防教室の実績は。

②骨折予防教室の開催日を増やすことや、土日など受講しやすい環境を作ることの検討は。

長寿健康部長 ①平成30年度の実績として、骨粗しょう症検診は、10月に実施し、3日間で343人が受診。骨折予防教室も10月に2日間を1コースとして実施し、実人数では52人が受講した。

②広報紙などで受講の案内を行っているが、定員に達していない状況のため、現時点では、平日の開催日をふやしても受講者の増加は望めないものと考えている。なお、土日の開催については、今後、教室の参加者へのアンケート調査の中で意見を聞いていきたいと思う。

その他のテーマ▶国の風疹対策の方針と市の対応は ▶受動喫煙防止対策の強化

ここに掲載していない一般質問の質問と答弁の概要は、ホームページでご覧いただけます。ホームページをご覧にならない方には、FAXまたは郵送でお届けしますので、議会事務局にご連絡ください。

04-2953-1111 内線3313